

部活について

殷思懿

私費学部留学生 中国

私は和歌山大学経済学部に在籍している中国からの留学生だ。2018年4月から今まで1年ぐらいだが、部活を通して自分は成長してきたことを強く感じた。実は部活という言葉は入学してから初めて聞いた言葉だ。部活とは学生が始業や放課後に行う運動部、文化部などのクラブ活動のことである。私は高校卒業した後、すぐに留学したため、中国の大学のこともよく知らないが、日本では、部活やサークルに入る前に、新生を歓迎するための新歓と呼ばれる行事を行う。新歓が行われる時期はどのクラブに参加するか決めていない時期のため、いくつかの食事会に参加でき、その食事会の印象で最後の確定新歓で入部するクラブを決めるのだ。私は、クラブを、高校時代のサークル活動のように共通の趣味を持った者が集まった団体の活動のことだと考えた。今回は弓道部を例に、部活がどのようなものかを紹介したい。



現在和歌山大学弓道部の指導者は田中先生という人だ。田中先生と比べれば、弓道を1年体験しただけの私は本当に赤ちゃんのようだ。従って、以下の説明は個人の体験や観点到に過ぎない。入部した後の普段の練習、試合と合宿という三つの部分から説明したいと思う。まず、入部した後先輩から弓道場のルールを教えてもらった。例えば、挨拶の仕方、礼の仕方や基本の姿勢など。どのような部活であっても、学生によ

って運営されているため、ほとんどの指導は先輩から教えてもらう。つまり、先輩も先輩の先輩たちから大体今の卒業生から指導を受け、代々受け継いできたということだ。もちろん各部活には独自のルールがあり、それを守らなければならない。しかしながら、弓道に対しての礼儀だけで弓が引けるわけではない。初心者は本格的に弓が引けるようになるのは大体3か月後である。弓を引く前に、紐弓、ゴム弓などの道具を利用して、射法八節という基本の動作を繰り返して練習する。このような練習は正直非常に退屈だが、弓道入門の基礎であると思う。しかし、その後先輩からの許可をもらい、自分の力で弓を引いて、的に当たった時は本当にうれしかった。

スラムダンクやテニスの王子様のような日本の運動系のアニメが好きな人はたくさんいるだろう。確かに、主人公たちの試合は読み手の血を沸き立たせる。しかし、高校生の彼らにとっては、試合よりも学業の方が大事なのではないか。詰め込み主義という教育理念の影響で育っている私は、アニメの中の学生たちがそれほど一生懸命試合に勝つ必要がないと考えていた。中国では学業以外の試合は、ただ個人的な趣味に過ぎず、ただの遊びでしかない。学校が連携して本格的な試合を行うこともほとんどない。大学で弓道部に入

ったことをきっかけに、少し理解できた。試合に勝利しても将来の進路に役に立たないかもしれないが、試合によって自分の信念が貫けて、人間的に成長できた。その他にも、試合の勝負は普段の練習に繋がっているため、1 週間の間に何回もの練習日がある。部活とサークルの大きな違いは、部活動は大学に認められた団体であるがゆえに、サークルよりきびしく、成果を出すことを目的に活動しているということだ。

次に、弓道部の最も面白いことは合宿だと思う。合宿は春合宿と夏合宿がある。もちろん弓道部だけでなく、他の部活も合宿がある。試合は自分の学校だけで行われなため、他の環境にも対応できるように、弓道部の夏合宿は毎年四国のある島の弓道場で行う。そこで一週間ほど弓道場の皆と一緒に住んだり、食事と一緒に食べたりしながら、集中的に練習する。一方、練習以外は海で遊



んだり、花火を打ち上げたり、温泉に入ることもできる。鍛錬やレクリエーションを通し、仲間との交流を深めて、長時間一緒に過ごすことにより、いつの間にか仲間意識が芽生える。留学生にとっては、言語力を鍛える絶好の機会でもある夏合宿は素晴らしい体験だ。

そのため、部活を試してみてもはどうだろうか。初心者でも歓迎してもらえるだろう。さらに、私は弓道のような日本文化も部活という形で存続できることに、深い感銘を受けた。確かに中国も書道、武術、京劇などの伝統文化が存在しているが、中国の大学生は自分の進路につながるものしか興味を持たないため、楽しめる人が少なくなるとともに、学ぼうとする人も少なくなってきた。しかし、人生の楽しさや大切さは、一見、不必要だと思われることに大切にするのではないだろうか。私は、皆さんにも、自分の人生を大切にして、失敗を恐れずに経験してほしいと思う。